

1-1 建物概要			1-2 外観		
建物名称			仕様等の確定状況	建物の仕様 持ち込み家電等 外構の仕様	確定 仮 仮
竣工年月	2019年12月	予定	<備考> ●高性能な建物の仕様を重視		
建設地	市街化区域 7 地域	確定			
用途地域	市街化区域 7 地域	確定	評価の実施日	2019年7月7日	
構造・構法	木造・在来軸組工法	確定	作成者	谷口 俊弘	
階数	2	確定	確認日	2019年7月7日	
敷地面積	370 m ²	仮	確認者	谷口 俊弘	
建築面積	127 m ²	仮			
延床面積	157 m ²	確定			
世帯人数	5	確定			

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 戸建の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE ≧3.0 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★★★★★</p> <p>環境負荷 L</p>	<p>★★★★★</p> <p>~0%: ★★★★★ ~50%: ★★★★★ ~75%: ★★★★★ ~100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★</p> <p>戸建標準計算</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な住宅(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q1 室内環境を快適・健康・安心にする</p> <p>Q2 長く使い続ける</p> <p>Q3 まちなみ・生態系を豊かにする</p> <p>LR1 エネルギーと水を大切に使う</p> <p>LR2 資源を大切に使いゴミを減らす</p> <p>LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Qのスコア = 4.0</p>		
<p>Q1 室内環境を快適・健康・安心にする</p> <p>Q1のスコア = 4.3</p>	<p>Q2 長く使い続ける</p> <p>Q2のスコア = 4.3</p>	<p>Q3 まちなみ・生態系を豊かにする</p> <p>Q3のスコア = 3.0</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LRのスコア = 4.0</p>		
<p>LR1 エネルギーと水を大切に使う</p> <p>LR1のスコア = 4.8</p>	<p>LR2 資源を大切に使いゴミを減らす</p> <p>LR2のスコア = 3.6</p>	<p>LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する</p> <p>LR3のスコア = 3.5</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>●評価対象住宅は、住宅地に建設される。快適な暮らしを実現するために断熱性能の向上と太陽光発電を採用した。また、高性能な仕様・消費エネルギーの削減等を高める計画を実施し、結果、建物からも環境に配慮した。</p>	<p>その他</p>	
<p>Q1 室内環境を快適・健康・安心にする</p> <p>●次世代断熱仕様、樹脂サッシ+トリプルガラスを採用し、冷暖房負荷の軽減、遮音性能を高めた ●日射調整への配慮 ●冷暖房計画を住宅全体を冷暖房する全館空調システムを採用し室内環境を快適に過ごせる計画とした</p>	<p>Q2 長く使い続ける</p> <p>●地盤調査に基づく安全な基礎方式と形状の検討 ●外壁通気工法、及び連続的な断面区画、防湿シートの設置による、躯体の高耐久化 ●維持管理対策等級3を取得し、給水ヘッダー方式・給湯ヘッダー方式を採用し、維持管理のしやすさを計画</p>	<p>Q3 まちなみ・生態系を豊かにする</p> <p>●接道部分に大きな塀や垣などを設置せず、近隣の街並みとの調和を計画した ●評価する住宅は良好な景観形成に配慮した</p>
<p>LR1 エネルギーと水を大切に使う</p> <p>●省エネルギー化の手法として、負荷の低減では設計計画・外皮の断熱化・日射の遮蔽・熱交換器の採用等を強化し、またエネルギーの効率的な使用手法では高効率な設備を採用した ●太陽光発電も採用するなど再生可能エネルギーを導入した ●BELSを申請し、星の数最高の5つを取得した</p>	<p>LR2 資源を大切に使いゴミを減らす</p> <p>●構造躯体用部材の生産・加工段階における廃棄物削減の取組として、プレカット工場での加工を採用した</p>	<p>LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する</p> <p>●従前の地形を改変せず、既存の自然環境の保全に配慮した ●騒音・振動・排気・排熱を考慮し、設備機器の位置や、建物の位置を計画した</p>